



# 九州

福岡県

## 独自の基板技術で省エネ照明を開発 節電の波に乗って新事業が急成長!!

豊光社は昨年、LED（発光ダイオード）照明と同じく省エネ効果の高いCCFL（冷陰極蛍光管）照明を開発し、注目を集めた。

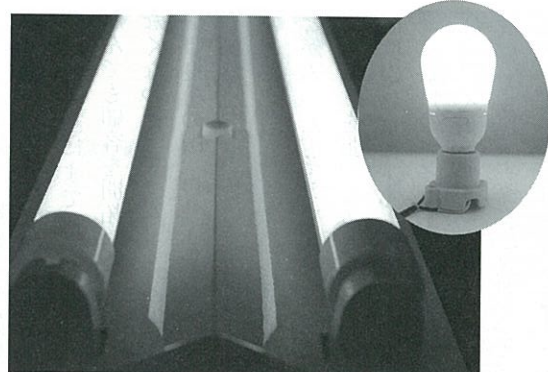
CCFLは液晶テレビやパソコン画面のバックライトなどに使われているボールペンほどの細い管。蛍光管と比べて製品寿命が長く、消費電力が小さい。そのことに着目した同社は「solana（ソラナ）」というブランド名で製品化したという。

価格はなんと40ワット型蛍光管タイプで、LED照明の上位機種と比べて半額以下、寿命は4万時間とLEDとほぼ同じ。消費電力は蛍光灯と比較して2〜4割カットできるそうだ。同社が開発した独自のプリント基板技術を活用しているため、他社の製品にくらべてよりも安いに軽量化に成功しているという。

また、CCFLの発光効率はLED



照明の新事業を立ち上げて波に乗る倉光宏社長



従来の蛍光灯に比べて消費電力が小さく寿命が長い「solana」。電球型の照明も開発した

の上位機種よりもやや劣るが、配光角が広いため、まんべんなく照らす室内照明の用途に適している。また、LEDの場合は青色LEDに黄色蛍光体を組み合わせて疑似白色をつくらなければならぬが、光の色の再現性が良いCCFLは、蛍光灯と同じく柔らかな白色光をつくることができるそうだ。

同社はもともと電子回路のプリント基板の設計から製造、販売を手掛けてきた。亡き先代社長である父親の後継いだ倉光宏社長は「リーマンショックの後で売上げが下がり、立ち上げ時には社内での反対もあった」と振り返る。しかし、それでも倉光社長は福岡県内の電子機器開発会社と技術提携し

**木談判 押します!! 断然御薦**

同社が開発した「solana」は、LEDに比べて低価格で自然な光を放つ次世代照明として期待されています。北九州市では、この製品を平成23年度の「北九州市トライアル発注新商品」に認定し、平成24年2月には市の施設で試用する予定です。

北九州市産業経済局中小企業振興課 吉武聡さん

て製品開発に取り組んだ。そして「最初に出展した展示会で予想を上回る反響があり、確信を得た」という。

昨年9月の発売以来、40ワット型蛍光管タイプの販売数は、月間2000本程度で推移していたが、震災による電力不足で注目され、月間1万本まで急増。販売代理店は、社を超えている。新事業が短期間で成長したのは、たんなる節電ブームだけではなく、もともと同社の技術基盤があつてこそといえるだろう。

**社長のひとこと**

QRコード対応のケータイ電話でご覧いただけます。

社長の自社採点

企画開発力	★★★★☆
営業力	★★★★☆
成長力	★★★★★
収益力	★★★☆☆
地域貢献力	★★★★☆
人材力	★★★★★
専門性	★★★★★
リサーチ力	★★★☆☆
計画性	★★★★☆
リスクマネジメント	★★★★☆

**会社概要**

本社：北九州市小倉北区上野津2-7-30 / 093-8081-4471 / 設立1969年 / 資本金1000万円 / <http://www.hohkoshya.co.jp/>

**中小企業の改革が国の経済を動かすという意識を持つべき**

当地長崎県は造船・観光・水産という3つが基幹産業である。観光業では昨年のNHK大河ドラマ「龍馬伝」ブームで良い数字が出たが、今年はその反動が大きく、打開策もあまりない。唯一の明るい話題はHISが買収したハウステンボスが、わずか1年で黒字化に成功したことだ。固定費を削減し、魅力的な企画を打ち出したことが勝因だが、近く上海航路復活の予定もあり、アジア圏からの来場者が増えるのではないかと期待がかかっている。

水産、造船については横ばいのままだ。ただし水産ではとくにかまぼこなどの加工品は、東北地方での生産低下のせいか、受注が大きく伸びている。造船では大型客船の受注などがあれば大きな雇用を生み出せるのだが、そういった話もあまり聞かない。

2012年も地域経済にとって厳しい状態が続くだろうが、それはマクロ的な観点から見ると日本経済は悲観的な材料が多い。こんなときだからこそ、中小企業にはミクロのレベルでオリジナリティに溢れた改革を行うことが肝心ではないか。それが国家全体の景気を変えるというを知ってもらいたい。

お問い合わせはコチラから

**会計人の眼**

岩永 経世  
岩永会計グループ  
(長崎県長崎市長)